9月は　ガン征圧月間

「ガン」死因のトップに

予防は―検診―早期発見

村の過去十カ年間の主要死因の原因は脳血管疾患と悪性新生物（ガン）が一位を占めていますが、昭和五十六年には、また悪性新生物による死亡が十九人と一位になり増加傾向が現れてきました。この増加傾向にある「ガン」死亡の内訳をみますと過去十カ年では胃ガンによる死亡が一番多くありました。しかし、昭和五十六年には直腸などといういわゆる腸に関係するガン死亡が七人となっているのに対し、胃ガンが六人、肺ガンが四人となっており、胃ガンによる死亡が減りはじめています。

胃ガンによる死亡は集団検診などの早期発見で防ぐことも出来ることから今後は減る傾向が出てくるといわれています。また肺ガンによる死亡が全国的に増える傾向にあることから今後より注意を払わなければなりません。

この悪性新生物（ガン）に罹る年齢も、四十歳から五十歳代と働き盛りの人に特に多いことから、日常の生活環境と食生活に十分注意を払い集団検診などを積極的に受けることが「ガン」を防ぐ第一歩といえます。

九月は「ガン征圧月間」です。ガン予防の正しい知識を身につけ、適切な予防と早期発見に心掛けましょう。

交通安全家族会議　作文募集

総理府などの主催で、次の要領で交通安全家族会議の作文を募集しています。

皆さんの家庭で、交通安全で話しあった内容や方法、話しあった結果を実行していることなどを作文にして応募してください。

- 応募期限　57年9月20日
- 応募区分
  1. 小学校低学年の部
  2. 〃　中学年の部
  3. 〃　高学年の部
  4. 中学生の部
  5. 母親の部
  6. 一般の部

小、中学生は四〇〇字詰原稿用紙三枚以内、母親の部と一般の部は五枚以内。

送り先
東京都千代田区外神田二～二～一七
社団法人、日本交通福祉協会交通安全作文募集係

表彰
最優秀及び佳作について表彰があります。

詳しいことは、役場住民課におたずねください。

一位　女子二百米リレー　男女5・6年　五十米

第10回横亀小学校水泳記録会

第十回亀田、横越両町村小学校五校の水泳記録会が、八月六日亀田町早通小学校で行われました。

横越小学校では、この日に向けて六月下旬から選手の強化指導に入り、記録を伸ばそうと一生懸命頑張ってきました。当日は、五、六年の代表選手三六名が出場し、鍛えた力を十八の競技種目で力いっぱい競いました。

結果は、男子五十㍍自由型（五年生）で武藤義雄君が、女子五十㍍自由型（六年生）で佐藤光さんがそれぞれ一位に、また、女子二百㍍リレーでも（佐藤、小野塚、武藤、小武組）一位になるなど、すばらしい健斗をしました。このほかの種目でも入賞者が多く練習の成果は、十分発揮されました。

（吉田啓一先生）

横小がこの記録会に参加してから四回目、今年の横小は新記録は出なかったが、各種目に入賞者が多く出た、このことは全体的に水泳の力がついたと思っている。これからも新記録を目ざし指導に当りたい。

亀横小学校水泳記録会入賞者

種目（学年）	男子	女子
50m自由型（5年）	1位 武藤 義雄 4位 加藤 寿夫	3位 武藤 和枝 6位 井越麻実子
50m自由型（6年）	6位 浅見 裕之	1位 佐藤 光 3位 小武 和代 5位 武藤 小雪
50m平泳ぎ（5年）	2位 白川 勝敏 4位 渡辺 昌克	4位 神田 典子 5位 熊倉美紀子
50m平泳ぎ（6年）	2位 久保 健二	2位 飯野美佳子 3位 佐藤 明美 4位 佐々水江美
25m背泳ぎ（5年）	3位 片山 真人 5位 石井 真樹	3位 石井 裕子
50m背泳ぎ（6年）	4位 今井 太市	
100m平泳ぎ（6年）	3位 白川 哲哉	3位 今井 知美 4位 伊藤 理恵
75m個人メドレー（6年）	5位 渡辺 洋	5位 佐藤 裕子
200mリレー	3位 浅見 裕之 桐生 篤 宮沢 功 仲村 栄次	1位 佐藤 光 小野塚孝雪 武藤 美代 小武 和代

＜この人を訪ねて＞

流木などを磨き　すばらしい置物に

沢海　島原倉四郎さん（61才）

なんの変哲もない一塊の木根が、見方、用い方でこの人にとっては、心ときめかす代物に変ってしまいます。

六年前、会社を退職した島原さんは阿賀の渡船場で働くうち、川の流木や川原に埋っている木の根っ子などを「何かにできは」と、堅い木を選んで家の車庫を作業場にして磨いています

〝磨く〟といっても、いきなり磨くのではなく、洗い―乾燥―削り―磨き、という具合に手間と根気が必要で、当の島原さんは「人に頼まれるでなく、また教わるのでもなく、ただコツコツと島原流に仕上げていくところに楽しみがある」といっています。

これまで一番の力作は、けやきの埋れ木で作った高さ一・二㍍、横一・七㍍の置物で精根入れただけに化石を思わせる堅さと、光沢は重量感も溢れ、島原家の「家宝」とするに貫録十分です。

この種の置物は素材からはじめ、特徴を活かしながらコツコツひざ上で手でこする素朴さが、それぞれ作品に現れ、ホール玄関、床の間などの趣きをぐっと引き立ててくれます。

今まで三十点ぐらい手がけた島原さんは、「素材になるのはめったになく、作品は大小でなく素材の特徴をいかに表現するかで決るので、苦心もある。しかし道楽での苦心は面白いですできたら文化祭にでも出品して、皆さんの批評や参考に」と抱負を語っていました。

堅い木は磨きに根気がいります

第一回壮年野球大会

ロートルズが初優勝

往年の名選手ぞろぞろ

村体育協会と公民館主催の第一回壮年野球大会が、八月二十二日横越小・中学校両グランドで行われ、参加七チームで覇を競った結果、ロートルズがラッキーセブンを下して初優勝しました。

開会式は、八時、横小グランドで行われ、来賓の渋谷村長、主催する曽我体協会長から激励の言葉をうけた後、山崎公民館長の始球式で試合が始められました。

試合は、四十歳以上の壮年とあって幾分割引いて五インニングとされ、戦いは予想どおり各大会の現役選手が多数いるロートルズが、他を圧して決勝へ。一方、横中第七回卒の同年生で堅めたラッキーセブンがつぶ揃いの強みを発揮して決勝へ。結果は、ロートルズが二回にあげた二点を武藤投手がラッキーセブンの打線を封じ二対〇で快勝しました。

壮年パワーが光る

開会時や試合あいさつでは「やあーやあー元気かい」、「久しぶりだなあー」こんな言葉が飛び交い、相手ベンチに行って昔話に花を咲かすなど、試合もさることながら久しぶりの出番に心が弾んだようです。さすがプレーは、昔とったキネヅカだけあって、見事なヒットや華麗な守備が見られヤンヤの喝采で、送球となると大山のバウンド、走る姿はペンギンにそっくり、これだけは、「歳」相応なのか、あせるほどボロが出て大爆笑でした。ともかく参加することで大いに愉快な野球を味わったようです。

表彰式では、三位まで表彰され、優勝杯を寄贈した横越農協五十嵐組合長も出席しロートルズに優勝杯を手渡されました。

表彰チーム
優勝　ロートルズ
二位　ラッキーセブン
三位　沢海クラブ
参加チーム
。役場。ラッキーセブン。塚田牛乳。ロートルズ。まどわらず。沢海クラブ。横越忠誠クラブ

木津Bチームが優勝

第3回 村老人連合会　ゲートボール大会

よいしょ、くぐったかな

横越村老人クラブ連合会では、八月二十四日、横越小学校で第三回会長杯争奪ゲートボール大会を行いました。

このゲートボール大会は、健康保持と生きがい対策の一つに役立てようと毎年開催しています。

今年は、十四チーム百十余名が参加、小学校体育館はお年寄りの熱気に包まれました。

試合は、一チーム五名の選手がトーナメント戦で覇を競うもので三十分のゲームタイムで得点を競うもので最高点を出すチームもあって昨年より全体的にレベルが向上しました。

結果は、木津Bチームと木津Cチームの木津同志が決勝に進み二十五対二十二で木津Bチームが第三回大会の優勝杯を手にしました。

なお、三位までの入賞チームは次のとおりです。

優勝　木津Bチーム
二位　木津Cチーム
三位　横越下チーム

20歳になって思うこと

◎佐藤恵美子さん（木津）　教員になることを目指しながら、自分の選んだ道をしっかりみつめ後悔しないようやりたい。

◎伊藤　満君（沢海）　二十歳は、人生の切替えポイントで、社会の色々な問題に対し真正面からぶつかっていかなければならないのではないでしょうか。

◎石塚広子さん（横越）　これからは誰れからも信頼され、何事に対してもあまり感情にとらわれず、広い目で物事をみつめられる、ゆとりある心と、おおらかな気持で人に接して、いつも笑顔をたやさないでいたい。

◎佐藤朱美さん（沢海）　看護の道を目指し、闘病のドラマを目のあたりにする毎日で、自分の力のなさと人間のエゴの醜さ、又必死に生きようとする真しな姿に一喜一憂していますが、これからは患者との交流や今後の出合いを大切にし、本当の意味での成人になりたい。

◎鳳間晴美さん（藤山）　一人で行動できる人ってステキに思います。チャレンジする気持がないとダメだと思います。そしていろいろの人と接することです。年齢層のちがう人達と接することも重要です。そういう中から自分の視野を広めつつひとつ自信をつけていきたい。

（寄稿文を要約）

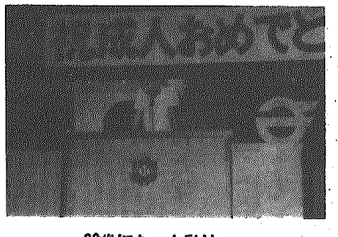
お盆の成人式

フレッシュな若者八十名が出席

村の成人式が八月十五日横越小学校体育館で行われ、今年の成人式対象者百五名中、八十名が出席しました。

当日は、来賓に渋谷村長、浅見議長、小林選挙管理委員長らと、成人の中学生時代の恩師広川、皆川、滝沢先生も出席され、成人の門出を祝う祝辞や励ましの言葉が贈られました。

式辞で山崎公民館長は、「……若者のエネルギッシュな行動は目を見はる見事さである。しかし人間のエネルギーは、外に向って発散するだけでなく行動が妥当であるかどうか、先ず考える力、そしてそれが妥当でないと思ったらつらくとも我慢をして内に抑える力、これも立派なエネルギーの燃やし方である……」と若者の責任と自覚を強調されました。また、成人者から七名が「二十歳になって思うこと」と題して所感発表があり若者らしい希望や心構えが述べられました。



20歳になった私は……